

令和2年度

事業報告書

令和3年6月

公益財団法人 北海道精神保健推進協会

目 次

	ページ
1 管理部門	
(1) 法人の概要	3
(2) 理事会・評議員会等	4
2 事業部門	
1 「精神障害者等」の社会参加への支援	
イ 精神科デイケア事業（こころのリカバリー総合支援センター）	
① 精神科デイケアの実施	
a デイケア事業概況	5
b 令和2年度に在籍した通所者の概要	5
c 年度別通所開始者・終了者数	6
d 年度別通所終了者の理由	7
e 通所希望見学者及び受理面接者数	7
f デイケア年間行事実施状況	7
g 関係団体の支援及び各種行事への参加状況	7
h 地域生活支援事業	7
② O B会活動支援	
a アフターケア（O B会）関連業務	8
③ 家族会活動支援	
a 家族会関連業務	8
ロ 障害者就労支援事業	9
ハ 障害者総合支援法に基づく福祉サービス事業	
(1) 多機能型事業所の運営	
① 就労継続支援B型事業所の運営	
a メンバー構成	9
b 福祉手帳取得状況	10
c 通所者数	10
d 工賃	10
e 活動内容	11
② 就労移行支援事業所の運営	13
③ 就労定着支援事業の運営	14
(2) 相談支援事業所の運営	
① ココクルの運営	14
2 精神障害者の社会参加を支える体制の整備及び啓発普及	
イ 精神保健思想の啓発普及と研修事業	
① 地域精神保健スタッフ等研修事業	
a デイケア・事業所スタッフのための研修・講座	15
② 実習生、見学の受け入れ事業	
a 施設見学等来所者状況	15
b 実習受入状況・教員会議及び訪問による打ち合わせ	15
③ 各種研修会への講師派遣及び企画運営の支援事業	15
④ 市民講座の開催	15
⑤ 障害者のスポーツ振興への協力	15
⑥ 精神障がい者地域移行研修事業の実施 （北海道精神障がい者地域生活支援事業（地域移行研修事業））	
a 地域移行研修会打ち合わせ	16
b センター長会議	16
c ピアサポーター会議	17
d ピアカウンセリングセミナー	17
e ピアサポーター研修	18
f 地域移行研修	19
ロ 高次脳機能障害者支援事業等	
① 相談窓口及びリハビリ提供・地域生活支援事業【在宅生活支援事業】	19
ハ ひきこもり対策推進事業	
① 北海道ひきこもり成年相談センターの運営	
② 札幌市ひきこもり地域支援センターの運営	
a 相談支援実施状況	23
b 支援ネットワークの構築等	28
c 普及啓発	34

3	会計部門	
	貸借対照表	3 6
	正味財産増減計算書	3 8
	正味財産増減計算書内訳表	4 0
	財産目録	4 2
	財務諸表に対する注記	4 4
	収支計算書	4 7
	収支計算書に対する注記	4 9

4	監査報告	
	監査報告書	5 0

資料編

1	理事・監事・顧問・参与・評議員名簿	5 1
2	財団法人設立の経過等	5 1
3	施設の概要	5 2
4	基本財産	5 2

1 管 理 部 門

(1) 法人の概要

【事業内容】

公益財団法人北海道精神保健推進協会は、精神保健思想の啓発普及と精神障害者等(メンタルヘルスケアの諸問題を抱える人を含む。)の社会参加を促進し、精神障害者等の福祉の向上に寄与することを目的として運営しており、定款に掲げる事業は、次のとおりである。

- ・精神保健思想の啓発普及
- ・精神障害者等の社会復帰のための医療施設(デイケア及び診療所)の設置及び運営
- ・障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業
- ・障害者総合支援法に基づく一般相談支援事業・特定相談支援事業
- ・障害者地域生活支援センター等の相談支援事業に対する指導援助
- ・精神障害者等の就労・雇用に向けた支援
- ・地域精神保健・医療・福祉充実のための支援
- ・精神保健医療福祉に関する調査研究
- ・その他本会の目的を達成するために必要な事業

○法人の主な事業

精神障害者の社会復帰や社会参加の促進を図ることを目的に、精神科デイケア施設(独立型)である「こころのリカバリー総合支援センター」を運営するとともに、多機能型事業所として、就労継続支援B型事業所「こころカ・プロダクション」、就労移行支援事業所「ここスタ」、就労定着支援事業所を運営している。また、相談支援事業所「ココクル」を設置している。

「リカバリーセンター」では医学的管理のもとに、通所者への個別的相談や指導、社会的自立のための基礎的訓練、生活指導、作業訓練、レクリエーション、体力づくりなどを週間プログラムに沿って実施している。

また、北海道から委託事業として、高次脳機能障害者の受け入れ(平成16年度～)や精神障害者の入院から地域生活への移行支援事業の実施(平成19年度～)、「北海道ひきこもり成年相談センター」の運営(平成21年度～)を行うほか、札幌市からの委託事業として、「札幌市ひきこもり地域支援センター」(平成27年度～)の運営を行っている。

【役員】 理事10名・監事2名・顧問1名・参与1名・評議員11名
※氏名等資料編(51P)に掲載

【法人職員】(合計22名:常勤職員 13名、非常勤職員 9名)※R3.3.31現在

○「こころのリカバリー総合支援センター」

- ・常勤職員 9名〔所長(医師・理事長)、事務職員2名、精神保健福祉士4名、
作業療法士1名、保健師1名、(精神保健福祉士・兼務1名)〕
- ・非常勤職員 3名〔医師1名、事務職員1名、精神保健福祉士1名〕

○就労継続支援B型事業所「こころカ・プロダクション」

- ・常勤職員 2名〔管理者(精神保健福祉士)、職業指導員(精神保健福祉士)1名、〕
- ・非常勤職員 6名〔生活支援員 1名、
目標工賃達成指導員 1名、調理員 4名〕

○就労移行支援事業所「こころカ・プロダクション」

- ・常勤職員 1名
〔就労支援員(作業療法士)1名
(管理者(精神保健福祉士・兼務))、(生活支援員(精神保健福祉士・兼務))〕
- ・非常勤職員 1名〔職業指導員1名〕

○相談支援事業所「ココクル」

- ・常勤職員 1名〔管理者(精神保健福祉士)、(相談員(精神保健福祉士・兼務))〕

(2) 理事会・評議員会等

区 分	年月日、会場等	議事等の内容
当法人監事による令和元年度決算等監査	令和2年5月22日 於：こころのリハビリ－総合支援センター	令和元年度 事業の実施状況、予算執行状況、財産目録等関係帳票の監査 (出席) 監事2名
令和2年度第1回理事会	令和2年6月23日 書面表決	令和元年度 事業報告、決算報告及び令和元年度補正予算等
令和2年度第1回評議員会	令和2年6月23日 オンライン開催	令和元年度 事業報告、決算報告及び令和元年度補正予算等 (出席) 評議員8名
みなし理事会	令和2年8月11日 書面表決	令和2年度第1次補正予算等
みなし評議員会	令和2年8月13日 書面表決	令和2年度第1次補正予算
令和2年度第2回理事会	令和3年3月10日 書面表決	令和3年度事業計画、収支予算等
令和2年度第2回評議員会	令和3年3月22日 書面表決	令和3年度事業計画、収支予算等
みなし理事会	令和3年3月30日 書面表決	常務理事の選定について

2 事業部門

1 「精神障害者等」の社会参加への支援

イ 精神科デイケア事業（こころのリハビリ総合支援センター）

① 精神科デイケアの実施

a デイケア事業概況

	R2										R3			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
開設日数	21	19	22	22	20	21	22	20	21	20	19	23	250	
月間在籍者数 下段：高次脳再掲	129	128	128	129	128	132	127	131	132	134	132	133		
	13	10	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9		
延べ出席者数 (デイケア等) 下段：高次脳再掲	466	396	592	615	552	640	668	588	608	612	615	656	7,008	
	35	23	35	36	30	14	18	28	25	20	25	34	323	
通所開始 下段：高次脳再掲	2	1	2	3	3	4	1	4	3	3	1	2	29	
	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
通所終了 下段：高次脳再掲	5	3	2	4	0	6	0	2	1	3	1	6	33	
	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
一日平均出席数	22.2	20.8	26.9	28.0	27.6	30.5	30.4	29.4	29.0	30.6	32.4	28.5	28.0	

b 令和元年度に在籍した通所者の概要

表. 1-1 通所者の件数

	男	女	計
前年度から継続	101	39	140
当年度に通所開始	20	9	29
計	121	48	169

表. 2-1 通所者の年齢

年齢区分	男	女	計
10～19歳	3	3	6
20～29歳	28	16	44
30～39歳	35	14	49
40～49歳	37	8	45
50歳以上	18	7	25
計	121	48	169
平均年齢	38.2歳	35.4歳	37.4歳

表.3-1 疾患別状況

	人数	構成
F2 統合失調症	56	33.1%
F3 気分(感情)障害	35	20.7%
F4 神経症性障害	18	10.7%
F6 人格障害	0	0.0%
F7 精神遅滞	3	1.8%
F8 発達障害	33	19.5%
F9 行動および情緒の障害	7	4.1%
G4 てんかん性障害	4	2.4%
G9 神経系のその他の障害	0	0.0%
高次脳機能障害(※)	13	7.7%
計	169	100%

※疾患別状況(高次脳機能障害内訳)

	人数	構成
F04 器質性健忘症候群	9	69.2%
F06 脳損傷、脳機能不全および 身体疾患による他の精神障害	2	15.4%
F07 器質性パーソナリティ行動障害	2	15.4%
計	13	100%

表.4-1 通所年数

通所年数区分	通所者	終了者	計
1年未満	26	8	34
1年以上～3年未満	25	10	35
3年以上～5年未満	26	7	33
5年以上～10年未満	40	5	45
10年以上	19	3	22
計	136	33	169
平均通所年数	5年5ヶ月	4年4ヶ月	5年2ヶ月

表.5-1 出席状況

通所日数区分	在籍者	終了者	計
50日以下	93	33	126
51日以上～100日以下	19	0	19
101日以上～150日以下	7	0	7
150日以上～200日以下	10	0	10
201日以上	7	0	7
計	136	33	169
平均通所日数	50.7	2.5	39.6

表.6-1 終了時転帰

転帰区分	男	女	計
就労・就学	6	1	7
事業所	5	1	6
在宅	6	3	9
入院	5	3	8
死亡	0	1	1
その他	2	0	2
計	24	9	33

c 年度別通所開始者・終了者

(高次脳機能障害 再掲)

(単位:人)

年 度	通所開始者	通所終了者
昭和63年度～令和元年度	896	750
高次脳機能障害	(45)	(35)
令和2年度	29	33
高次脳機能障害	(1)	(4)
計	925	783
	(46)	(39)

d 年度別通所終了者の理由

	年 度	就労・就学	事業所	在宅	中断	入院	死亡	その他	計
総数	昭和63年度～令和元年度 (高次脳機能障害 再掲)	128 (4)	168 (14)	150 (7)	40	219 (6)	8 (2)	37 (2)	750 (35)
	令和2年度 (高次脳機能障害 再掲)	7	6 (1)	9 (2)		8	1	2 (1)	33 (4)
	総計	135 (4)	174 (15)	159 (9)	40	227 (6)	9 (2)	39 (3)	783 (39)

e 通所希望見学者及び体験者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
見学・体験者数	精神科デイケア	1	3	2	1	4	3	7	2	6	1	4	6	40
	高次脳機能障害	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2

f デイケア年間行事实施状況

月	日	行事名	人数(メンバー)
5	4	特別デイケア	16
7	24	特別デイケア	32
9	18	キャンプ代替イベント	46
9	21	特別デイケア	26.5
11	1	センター祭	48
12	25	クリスマスナイトケア	22
12	29	年納め会	25.5
1	4	新年会	30
1	16	特別デイケア	10
2	13	特別デイケア	15.5

g 関係団体の支援及び各種行事への参加状況

月	日	
10	4	第24回精神障害者社会参加促進研修会参加

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、その他行事は中止となった

h 地域生活支援事業

- ・地域生活支援業務

(単位:回)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
家族訪問及び同行支援	4	1	3	4	2	1	0	1	0	0	0	0	16
関係機関とのケース会議	0	0	0	3	0	1	0	1	0	0	1	1	7
関係機関連携(電話・来所等)	10	5	11	14	4	4	13	3	7	3	4	10	88

- ・個別相談関連業務件数

()は高次脳再掲 (単位:回)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
メンバー	108 (1)	86 (1)	106 (1)	84 (1)	105 (1)	103 (0)	120 (0)	82 (0)	74 (0)	76 (0)	75 (0)	54 (0)	1073 (8)
OB	8 (1)	0 (0)	3 (1)	4 (1)	4 (0)	3 (0)	4 (0)	1 (0)	3 (1)	2 (0)	7 (0)	6 (1)	45 (2)
家族	3 (0)	4 (1)	6 (2)	6 (1)	1 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	5 (0)	6 (0)	3 (1)	37 (5)
一般	1 (1)	0 (2)	0 (6)	8 (9)	0 (2)	1 (0)	1 (3)	1 (0)	1 (4)	1 (0)	1 (1)	0 (3)	15 (15)

② OB会活動支援

a アフターケア（OB会）関連業務

月	日	曜日	内 容	場 所	参加人数
4	4	土	元気でやっとなる会(交流会) ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止		
9	29	火	幹事会（今後の交流会について話し合い）	こころのリカバリー総合支援センター	3
11	24	火	幹事会 機関誌（こまん・たれ・ぶー）編集・発送	こころのリカバリー総合支援センター	1

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年度は元気でやっとなる会（交流会）の開催を自粛

③ 家族会活動支援

a 家族会関連業務

(単位:人)

月	日	曜日	内 容	出席人数
4	1	水	発送	3名
4	15	水	お休み（リラの会総会中止）	-
5	7	水	発送	3名
5	19	水	お休み	-
6	3	水	発送	3名
6	17	水	お休み	-
7	1	水	発送	3名
7	15	水	お話し合い	18名
8	5	水	発送	3名
8	19	水	お話し合い（4グループに分かれて）	17名
9	2	水	発送	3名
9	16	水	こころリカ・プロダクション活動内容紹介	11名
10	7	水	発送	3名
10	21	水	メリデン版訪問家族支援について	11名
11	4	水	発送	3名
11	1	日	センター祭参加	10名
12	2	水	発送	3名

月	日	曜日	内 容	出席 人数
12	16	水	お休み	-
1	6	水	発送	3名
1	20	水	お休み（新年会中止）	-
2	3	水	発送	3名
2	17	水	お休み	-
3	3	水	発送	3名
3	17	水	お休み	-

※コロナウイルス感染拡大防止のため

ロ 障害者就労支援事業

ハ 障害者総合支援法に基づく福祉サービス事業

（１） 多機能型事業所（就労移行支援事業・就労継続支援B型事業）の運営

① 就労継続支援B型事業所の運営

令和2年度は、コロナ禍での活動となり、例年とは異なる動きを求められた。全国に先駆け発出された、北海道の緊急事態宣言下では、職員・メンバーともに感染予防の観点から連休を含めた2週間のリモートワークを実施した。仕事の中でオンライン会議システムのzoomを使っていたこともあり、さほど困難もなく仕事を行えるということは実証できた。一方で、在宅ワークが長くなることでの課題（体調管理など）も明確になった。

これまで多く引き受けてきた大学等での講義については、上半期は軒並み中止となり、メンバーの収入減が懸念されたが、下半期に「オンラインによる講義」の依頼が増え、通常依頼が来ることがなかった道外の大学、専門学校からの依頼もあったことは収穫であった。

一方、例年さほど多くはなかった「動画撮影」「zoomによる研修の配信」という仕事が激増し、仕事の幅が広がった。6年間、積み上げてきたスキルがいかされた形となり、メディア事業所として認知されてきていることも実感できた。

課題としては、仕事の依頼が増え、収入が増えた半面、当初から目的としてきた「情報発信」について、考え、話し合い、形にしていくことに手を付けられなかったことである。次年度以降、改めて力を入れていく必要があると考える。

a メンバー構成 （令和3年3月31日現在）定員14名

- ① 性別： 登録者14名（男性11名、女性3名）
- ② 年齢： 平均年齢40.6歳（最低21歳、最高55歳）

③障害状況：

疾患名	人数
身体障害	2
知的障害	3
精神障害	11
計	16

※（2名重複）

b 福祉手帳取得状況

手帳等級	人数
身体障害者福祉手帳 1 級	1
身体障害者福祉手帳 4 級	1
療育手帳 B	1
療育手帳 B ー	2
精神保健福祉手帳 1 級	1
精神保健福祉手帳 2 級	8
精神保健福祉手帳 3 級	1
なし	1
計	16

※（2名重複取得）

c 通所者数

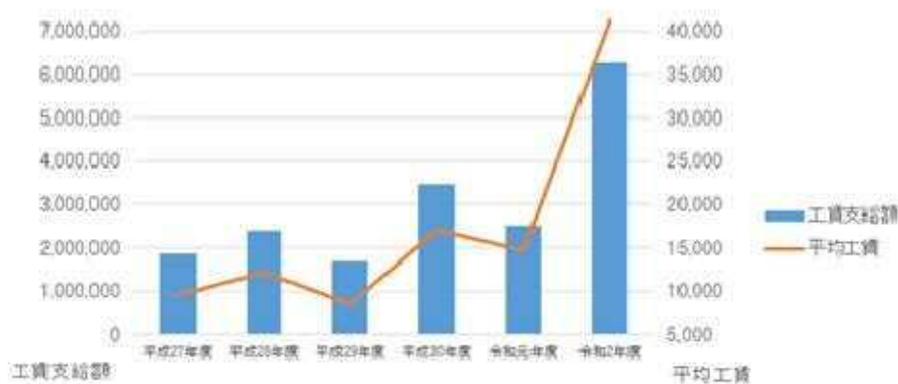
①通所状況

令和2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
登録人数	14	14	13	13	13	14	13	13	14	14	14	15	13.7
平均通所者数/日	10.7	12.3	11.0	11.1	11.3	11.2	11.0	11.6	10.6	11.8	12.5	12.3	11.5

d 工賃

令和2年度	総計
工賃支給額	6,246,815 円
平均支給額(月給)	40,353 円

工賃支給実績の推移



e 活動内容

○行政との協働（委託事業など）の実績

市町村名／事業名
北海道 「防護服着脱映像制作」 「新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に関わる映像制作」

○他の NPO・市民活動団体との協働の実績

団体名	概要
北海道精神保健協会	機関誌発送業務
北翔大学橋本ゼミ	卒業研究 DST 制作協力
北海道地域ケアマネジメントネットワーク（北海道 CM ネット）	体験談報告
きらりの集いオンライン	運営補佐
ふくおか NPO センター	HAPPY ぼうさいプロジェクト
リジリエンス研究情報センター	ホームページ管理
白石東地区社会福祉協議会	白石東地区防災研修 R2 年度災害時要配慮者避難支援研修会
北広島福祉ショップふゆーる	イベントへの出店参加
地域移行研修事業	オンラインピアカウンセリング研修
特定非営利活動法人 障がい者就労支援の会 あかり家	障害者体験ゲームヒアリング

○講義実績

団体名
札幌医科大学（OT）
札幌保健医療大学（Ns）
星槎道都大学（PSW）
仙台白百合女子大学
日本医療大学（NS）
北海道医療大学（Ns）
北海道文教大学（Ns）
北翔大学（PSW）
北星学園大学（PSW、中村ゼミ）
大阪保健福祉専門学校（PSW）
札幌リハビリテーション専門学校（OT）
北海道福祉・保育大学校（PSW）
北海道リハビリテーション大学校（OT）
公益社団法人 北海道家庭生活総合カウンセリングセンター
一般社団法人 北海道精神保健福祉士協会
釧路脳外傷リハビリテーション講習会

○撮影・映像制作

団体名／事業名	区分
小樽市中部地域包括支援センター ／「小樽市高齢者お元気プロジェクト！」自宅でできる運動、 脳トレ、手洗い動画製作	撮影・映像制作
精神障害者の自立支援を考える会 ／刑法39条・医療観察法を考えるシンポジウム2020	撮影・映像制作
こころのピアサポートフォーラム 2021 in 北海道	映像制作
社会福祉法人麦の子会 ／生活発表会	撮影・映像制作
札幌市身体障害者福祉協会 ／札幌市身体障害者福祉協会 PR 映像	映像制作
札幌市みかほ整肢園 ／「運動会」	中継・映像制作
道北センター福祉会 道北地域生活支援センター ／ピアサポーター活動紹介映像	映像制作
日本精神保健福祉士協会 ／認定スーパーバイザー養成研修映像	撮影・映像制作
北海道学習障害児・者親の会クローバー / 発達障害を持つ 子どもの家族支援《ペアレントメンター》研修映像	撮影・映像制作
北海道高次脳機能障害リハビリテーション講習会	中継・映像制作
北海道社会福祉協議会福祉人材センター ／「介護の基礎知識を学ぶ講習会」	中継・映像制作
北海道中小企業同友会札幌支部 ／障がい者雇用を通して企業づくりを考えるフォーラム	中継・映像制作
北海道ひきこもり成年相談センター・札幌市ひきこもり地域支援 センター / ひきこもり支援機関関係職員等研修会および、 ひきこもりサポーター養成研修事業	撮影・映像制作
北海道精神保健福祉士協会 / 入会時指定研修2	中継
北海道精神保健福祉士協会 道北ブロック	中継
全道ピアサポーター研修	中継・進行担当
精神障がい者地域生活支援事業（後志圏域）地域移行研修会 ／精神障がいにも対応した包括ケアシステムの構築を 目指して ～プロローグ研修～	中継
精神障がい者地域生活支援事業（上川圏域）地域移行研修会 ／精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を 目指して	中継

○主な自主制作作品

作品名	摘要
LINE スタンプ～障害者あるあるスタンプ販売	スタンプ 販売
「お家でできる 楽笑～らくらく～リフレッシュ体操」	DVD 販売

○ラジオ放送

放送局／周波数	タイトル／放送日時	回数	摘要
FMアップル 76.5MHz	「ここプロありのままラジオ-ファンキーで行こう！」 毎週（木） 14:30～15:00／生放送	46 回	令和元年5月9日 より放送開始

○見学者来所状況

	総人数	通所 希望者	関係機関	教育機関	実習生	ボラン ティア	デイケア メンバー	その他
4月	3	1	1					1
5月	0							
6月	2		1	1				
7月	1			1				
8月	11	2	3	1	2			3
9月	7		1	2	2			2
10月	0							
11月	7			6				1
12月	15			15				
1月	3	1	1	1				
2月	4		3				1	
3月	8	1	5	2				
計	61	5	15	29	4	0	1	7

② 就労移行支援事業所の運営

平成28年度6月に開設して以降の全利用者総数は17名となった。
令和2年度においての内訳としては以下の通りである。就労後継続して働いていた利用者が課題を感じ再利用する状況が何件かあった。

なお、今後就職後6か月を経て「就労定着支援事業所」の対象となる利用者があるため継続した支援を行いながら利用等の手続き等行っていく。

○利用者内訳（定員6名）

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規利用者 () 内再利用	0	0	0	0	0	1	0	0	0	(1)	1	(1)	2 (2)
終了者 () 再就職	0	1	0	0	0	2	0	1	0	0	0	(1)	5
月毎 登録者数	5	5	4	4	4	3	3	2	2	3	4	4	

令和2年度利用者実数：9名

新規利用者

単位：人

内容	人数
デイケアからの移行	2
B型事業所からの移行	0
その他	2

終了者の転帰

単位：人

内容	人数	備考
一般企業への就職	2	継続就業中
就労継続等への移行	1	B型事業所
中断	2	

就職先種別（開設以降）

単位：人

業種	専門事務	車両販売	調理・給食	行政機関	事務補助	リサイクル業	他
	1	1	1	1	2	1	1

③就労定着支援事業の運営

令和3年4月30日現在、継続して就労している利用者1名が登録している。利用対象者となりうる就労者は他にもいるが現状ではメールや電話での支援で対応している。また、継続していた方も退職することがあり、今後の支援の仕方も検討の余地が残されている。今後必要に応じて就労定着支援への登録を勧め、支援の幅を広げていく。支援の仕方についても新型コロナの影響があり、沿革による対応を工夫していく。

(2) 相談支援事業所の運営

① ココクルの運営

当法人では「精神障害者等の社会参加の促進」を目的としており、これまでデイケア通所者や家族等からの相談に応じているところである。障害者総合支援法に基づき、①就労支援事業やグループホーム等の障害福祉サービスの利用促進を図るため、②ここリカ・プロダクションやその他障害福祉サービスの利用更新（概ね1年毎）のため、平成28年に相談支援事業所を開設し医療から福祉へ繋がる支援を行っている。令和2年度の実績としては下記のとおりとなっている。

○相談実績（件数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規	2	1	1	0	1	1	1	0	2	0	0	0	9
電話・メール相談	4	6	8	7	7	9	12	11	13	10	11	14	112
面接相談	16	18	19	15	14	15	12	13	10	9	8	12	161
訪問・同行支援	9	8	10	11	12	11	10	10	9	8	11	10	119
関係機関との連絡	11	13	12	10	11	14	13	10	11	12	10	13	140

2 精神障害者の社会参加を支える体制の整備及び啓発普及

イ 精神保健思想の啓発普及と研修事業

① 地域精神保健スタッフ等研修事業

a デイケア・事業所スタッフのための研修・講座

コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した。

② 実習生、見学の受け入れ事業

a 施設見学等来所者状況

月	日	曜日	内容	人数
8	21	金	グループホーム職員	1
9	30	水	家庭生活カウンセリングセンター受講者	10
10	14	水	札幌医科大学大学院生	1
11	2	月	北星学園大学学生	7
				19

b 実習生受入状況・教員会議及び訪問による打ち合わせ

内容	人数
福祉系学科(北海道医療大・札幌学院大・星槎道都大・日本医療大・北翔大)	7
作業療法学科(札幌医科大学・リハビリテーション大学校)	3
看護学科(北海道医療大学)	10
医学部(北海道大学)	4
計	24
実習事前訪問対応	2回
実習指導者会議等出席(オンライン会議も含む)	2回

③ 各種研修会への講師派遣及び企画運営の支援事業

社会福祉団体など関係機関の要請に基づき、研修会への講師派遣や企画運営等への協力・技術支援を行っている。

④ 市民講座の開催

コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した。

⑤ 障害者のスポーツ振興への協力

精神障害者のスポーツ振興の意味も含め、精神障害者団体への体育館貸出などへの協力を検討中である。

⑥精神障がい者地域移行研修事業の実施

(北海道精神障がい者地域生活支援事業(地域移行研修事業))

今年度はコロナの影響もあり、例年とは異なる形で研修等を実施した。全ての圏域の支援センターとオンライン会議システムのzoomを使い、現状と今年度の見通しの打ち合

わせを実施。その上で、オンライン研修を軸とした研修計画にシフトした。その話し合いの中で、ピアサポーターが病院に入ることができず、活動が縮小され、モチベーションの低下がみられるという報告が多数挙げられた。その現状に対応するために、全道のピアサポーターフォローのための月一回の情報交換、意見交換会をオンラインで実施することとした。また、センター長の定期的な情報交換も必要という意見から、センター長会議も年5回、定期実施した。

センター長会議の中で、ピアカウンセリングセミナー基礎研修の実施を求める声も多かったが、対面での実施が難しいことから、オンラインでの実施も試みた。初のオンライン実施のために、難しさもあったが、参加者からは好評で、継続実施を求める声も多かった。次年度に向けての課題としたい。

全道ピアサポーター研修（例年3日間）については、時期は例年と同じにしたが、北海道の感染状況を鑑み、札幌市実施を避け、旭川会場、苫小牧会場、オンライン参加に分け、中継で各会場を結び、交流できる工夫をして2日間で実施した。感染状況に合わせた実施ができたことで、研修の目的は達成され、交流もできたということで好評であった。

エリア別研修については、集合型での実施が困難であったために、オンラインと集合型を組み合わせ、数か所の圏域で同時開催、その様子をライブ配信するという工夫によって、エリアをまたいだ全道域の研修として実施することができた（地域移行研修とエリア別研修の混合型）。

次年度においても、コロナの感染状況を見ながら、柔軟な研修実施が求められるので、工夫しながら実施していく。

a 地域移行研修会打ち合わせ

日時	会場（圏域）	内容
5月25日 11:00～	砂川ぼぼろ打ち合わせ (zoom)	圏域の現状とコロナ禍での研修開催についての話し合い
5月25日 14:00～	深川あっぷる打ち合わせ (zoom)	圏域の現状とコロナ禍での研修開催についての話し合い
5月26日 11:00～	富良野打ち合わせ (zoom)	圏域の現状とコロナ禍での研修開催についての話し合い
5月27日 10:00～	岩見沢りら打ち合わせ (zoom)	圏域の現状とコロナ禍での研修開催についての話し合い
5月27日 13:00～	帯広打ち合わせ (zoom)	圏域の現状とコロナ禍での研修開催についての話し合い
5月27日 15:00～	室蘭らん打ち合わせ (zoom)	圏域の現状とコロナ禍での研修開催についての話し合い
5月29日 10:00～	名寄打ち合わせ (zoom)	圏域の現状とコロナ禍での研修開催についての話し合い
5月29日 13:30～	北見打ち合わせ (zoom)	圏域の現状とコロナ禍での研修開催についての話し合い
5月29日 16:00～	函館打ち合わせ (zoom)	圏域の現状とコロナ禍での研修開催についての話し合い
6月1日 10:00～	釧路打ち合わせ (zoom)	圏域の現状とコロナ禍での研修開催についての話し合い
6月3日 13:00～	旭川打ち合わせ (zoom)	圏域の現状とコロナ禍での研修開催についての話し合い

b センター長会議

日時	会場（圏域）	内容
7月2日 11:00～	第一回センター長 会議 (zoom)	道内各センター長と情報交換、意見交換（研修について、ピアサポーターへの支援方法についてなど） →毎月のピア意見交換会の実施が決まる

日 時	会 場 (圏域)	内 容
8月18日 11:00～	第二回センター長 会議 (zoom)	道内各センター長と情報交換、意見交換 (研修についてなど)
10月27日 15:00～	第三回センター長 会議 (zoom)	道内各センター長と情報交換、意見交換 (研修についてなど)
5月27日 10:00～	第四回センター長 会議 (zoom)	道内各センター長と情報交換、意見交換 (研修についてなど)
5月27日 13:00～	第五回センター長 会議 (zoom)	道内各センター長と情報交換、意見交換 (研修についてなど)

c ピアサポーター会議 (zoom)

日 時	参加者	内 容
7月30日 10:00～	46名	各センターのピアサポーター自己紹介、情報交換
8月12日 10:00～	38名	情報交換と各センターからの近況報告
9月15日 10:00～	42名	情報交換と各センターからの近況報告
12月30日 10:00～	14センター	情報交換と各センターからの近況報告
1月20日 11:00～	12センター	情報交換と各センターからの近況報告
2月9日 11:00～	15センター	情報交換と各センターからの近況報告
3月9日 11:00～	14センター	情報交換と各センターからの近況報告

d ピアカウンセリングセミナー (zoom)

日 時	参加者数 (当事者)	内 容
10月13日 13:30～	23名	オリエンテーション、自己紹介
10月27日 13:30～	22名	演習「他己紹介」
11月10日 13:30～	18名	演習「話し合いの進め方」
11月24日 13:30～	16名	演習「決定の自分史」
12月15日 13:30～	17名	演習「誰が何を言っているの」
12月22日 13:30～	16名	演習「自分自身に対する気持ち」
1月12日 13:30～	16名	振り返り、演習「得意の一步」

e ピアサポーター研修

年月日	参加者 (当事者再掲)	開催場所	内 容
10月1日(木) ～10月2日(金)	鷹栖 26名 (18名) 苫小牧 21名 (14名) Zoom 48名 (38名)	鷹栖町会場 苫小牧会場 (会場間は zoomで結ぶ) Zoomによる 参加	<p>一日目 13:00～16:30</p> <p>グループワーク (自己紹介、どうやって来たか、何を期待してきたか、気分調べ)</p> <p>支援センター報告 (10分) (稚内) 鷹栖 支援センター報告 (15分) (後志) オンライン 質疑応答 休憩 5分</p> <p>支援センター報告 (10分) (道北) 鷹栖 支援センター報告 (12分) (北見・遠紋) オンライン 質疑応答 休憩 10分</p> <p>支援センター報告 (10分) (釧路・根室) オンライン 支援センター報告 (15分) (函館) 苫小牧 質疑応答 休憩 5分</p> <p>支援センター報告 (10分) (北空知) オンライン 支援センター報告 (15分) (室蘭) 苫小牧 休憩 5分</p> <p>グループワーク (今日の報告を聞いた感想、考えたこと、質問などを出し合う、気分調べ)</p> <p>1日目終了 明日の連絡など</p> <p>二日目 9:30～12:30</p> <p>グループワーク (気分調べ)</p> <p>支援センター報告 (9分) (苫小牧) 苫小牧 支援センター報告 (10分) (日高) オンライン 質疑応答 休憩 10分</p> <p>支援センター報告 (15分) (旭川) 鷹栖 支援センター報告 (10分) (南空知) オンライン 質疑応答 休憩 5分</p> <p>支援センター報告 (15分) (富良野) 鷹栖 支援センター報告 (10分) (中空知) 鷹栖 質疑応答 休憩 10分</p> <p>支援センター報告 (15分) (千歳) 苫小牧 支援センター報告 (10分) (帯広) オンライン 質疑応答 休憩 5分</p> <p>支援センター報告 (10分) (留萌) 鷹栖</p> <p>グループワーク (今日の話聴いて考えたこと、感じたこと、質問)</p> <p>2日目終了 ※交流時間 ～13:40は会場を開放しています。</p>

f 地域移行研修

日時	会場	参加者	内容
11月9日	倶知安厚生病院	12名	地域移行研修打ち合わせ
11月20日(金) 13:30~15:30	倶知安町福祉文化ホール (倶知安町)	後志圏域 33名 他圏域 10名	Zoom ウェビナー配信 研修趣旨説明：精神障がい者地域生活支援センターしりべし センター長 安田 亜子 講演：「包括ケアシステムを始めよう ～その第一歩を後志に刻む～」 講師 JA 厚生連 倶知安町厚生病院 診療部長 土田 正一郎先生 話題提供：「包括ケアシステムにおけるピアサポーターの未来可能性」 話題提供者～精神障がい者地域生活支援センターしりべし ピアサポーター
2月	【旭川会場】旭川市障害者福祉センターおびつた会議室1 【鷹栖会場(上川中部)】鷹栖地区住民センター ふらっと ホール 【富良野会場(富良野)】ラベンダーの郷 富良野地域生活支援センター 【名寄会場(上川北部)】駅前交流プラザ「よろーな」	旭川23名(3名) Zoom2名 鷹栖19名 富良野16名(4名) 名寄9名(4名) Zoom5名 他圏域から Zoom 56名(14名)	13:00 受付 13:30 開会・オリエンテーション 13:40~15:00 講演「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を目指して」 講師 社会福祉法人 蒼溪会 理事長 有野 哲章氏 (他圏域の人はここまでの参加) 休憩 15:10~16:00 グループワーク 「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に係る協議の場設置に向けて」 16:00~16:30 総括

□ 高次脳機能障害者支援事業等

① 相談窓口及びリハビリ提供・地域生活支援事業【在宅生活支援事業】

1. 支援プログラムの実施状況及び相談件数

○リハビリテーションプログラム実施状況（※通所登録者数は月の保席数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
通所登録者(人)	13	10	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	
実施回数(回)	21	19	22	22	20	21	22	20	21	20	19	23	250
延べ人数(人)	35	23	35	36	30	14	18	28	22	20	25	34	320
1日平均通所者(人)	1.7	1.2	1.6	1.6	1.5	0.7	0.8	1.4	1.0	1.0	1.3	1.5	

・新規登録者：1名

① A氏 40代 男性 くも膜下出血による高次脳機能障害

・終了者：4名

① B氏 40代 男性 交通事故による高次脳機能障害 終了理由：事業所通所

② C氏 70代 男性 くも膜下出血高次脳機能障害 終了理由：高齢のため通所困難

③ D氏 40代 男性 交通事故による高次脳機能障害 終了理由：遠方のため通所困難

④ E氏 50代 男性 頭部外傷による高次脳機能障害 終了理由：連絡とれず中断

〈登録者の動向〉

コロナウイルスの流行により、持病があるため通所を中断する方、高齢のため外出は自粛するという方がいた。他事業所を併用利用している方も数名いる。

【プログラムの内容】

AM：全通所者による話し合いで構成される文化系活動

(カラオケ、カードゲーム、茶話会等)

全通所者による話し合いで構成されるスポーツ活動

(バドミントン、バレー、卓球等)

小グループ(クローズグループ)による話し合いで構成される活動

(料理、話し合い、外出等)

軽スポーツ エクササイズやヨガ等のゆるやかな運動

治療系プログラム

(心理教育、WRAP、自分のトリセツ作り、アンガーマネジメント等)

PM：全通所者による話し合いで構成される文化系活動

(カラオケ、カードゲーム、茶話会等)

全通所者による話し合いで構成されるスポーツ活動

(バドミントン、バレー、卓球等)

行事の企画運営グループ等

クラブ活動(陶芸、絵画、英会話、茶道、スポーツ、卓上ゲーム、麻雀等)

行事への参加：センター祭 等

※通所日数は、他機関との併用、体力や精神的疲労の度合いなど個々の状況に合わせて決定している。その中で複数あるプログラムから自分に適したプログラムを選択し参加する。(必要に応じスタッフがプログラム選択の助言を行う)

○相談支援件数と内容

	計
電話(家族・本人)	26
電話(関係機関)	47
来所相談	21
訪問・同行	12
文書・メール	48
見学(家族・本人)	2
見学(関係機関)	1
計	157

【相談内容】

- ・本人～対人関係や生活上の悩みや不安、就労等への準備、日常生活における計画や手順の工夫など
- ・家族～関わりの苦労、工夫を聴くほか、本人と他の家族との意思疎通や目標確認
- ・医療機関(脳神経外科・リハ科・精神科病院、クリニック)～退院後の支援、リハビリテーションについて
- ・行政機関、就労支援・介護支援・相談支援事業所～受け入れ先について、対応困難なケースについて

○同行支援・家庭訪問と内容

- ・家庭での生活状況の確認や家事等の本人の自立に向けた助言、指導を行った。

○精神科医による診察

- ・外来診察 【47件】

近年はデイケア利用者だけではなく、定期的な診察や生活支援のために利用する方も増えている。手帳の申請や、裁判に係る意見書を作成。

2. 支援計画の作成と評価

○新規支援計画の作成

医師の診断とコメディカルによる認知機能、ADL 評価を行い、今後必要とされる地域資源やリハビリプログラムの検討を行った。

○本人・家族の目標設定と振り返り

	実施内容
4月	座談会（グループの中でのリハビリの振り返りとフィードバック）
4月	定期面接（本人・家族同席での振り返りと目標設定）
10月	座談会（グループの中でのリハビリの振り返りとフィードバック）
10～11月	定期面接（本人・家族同席での振り返りと目標設定）

3. 支援調整・検討会議の開催

○施設内支援検討会議

	回数	実施内容
4月	4	支援計画の評価検討、対応の検討、新規受け入れ会議
5月	2	対応の検討
6月	3	対応の検討
7月	6	対応の検討
8月	11	対応の検討、ケース検討
9月	-	
10月	1	支援計画の評価検討
11月	2	対応の検討
12月	2	対応の検討
1月	3	対応の検討
2月	3	対応の検討
3月	1	ケース検討

○他機関との支援調整会議

実施日	参加機関	内容
7月15日	本人、母、B型事業所職員、就労移行支援事業所職員、GH職員、相談室職員、当センター職員	事業所利用に向けて、これまでの経過と今後の生活について情報共有
7月15日	B型事業所職員2名、当センター職員	一般就労に向けて、経過の報告と情報共有、今後への検討
10月9日	弁護士、当センター精神科医	裁判に向けた打ち合わせ
10月20日	弁護士、当センター精神科医	裁判に向けた打ち合わせ
10月22日	弁護士、当センター精神科医	裁判に向けた打ち合わせ
12月15日	弁護士、当センター精神科医	裁判に向けた打ち合わせ
12月28日	弁護士、当センター精神科医	裁判に向けた打ち合わせ
2月12日	リハ病院SW、当法人事業所スタッフ	ケースの状況確認と共有
3月2日	本人、母、B型事業所職員(Ns.)、当センター職員	生活習慣、保健指導

○その他機関との連携

実施日	関係機関	内 容
6月9日	B型事業所	利用に向けての見学同行
8月20日	区役所	事業所利用にあたっての聞き取り同行
12月28日	裁判所	外来利用者の裁判にて医学的知見の供述のための出廷

4. 関係機関相互の情報交換及び参加研修会等

実施日	実 施 内 容	主 催
6月24日	令和2年度 第1回高次脳機能障害支援普及全国連絡協議会	国立障害者リハビリテーションセンター
7月17日	令和2年度 第1回支援コーディネーター全国会議	国立障害者リハビリテーションセンター
7月29日	高次脳機能障害者 リハビリテーション講習会実行委員会①	講習会実行委員会
7月29日	高次脳機能障がい者支援事業委託事業者打ち合わせ会議	北海道保健福祉部福祉局 障がい者保健福祉課
8月26日	高次脳機能障害者 リハビリテーション講習会実行委員会②	講習会実行委員会
9月10日	高次脳機能障害者 リハビリテーション講習会実行委員会③	講習会実行委員会
10月15日	高次脳機能障害者 リハビリテーション講習会実行委員会④	講習会実行委員会
11月2日	高次脳機能障害者 リハビリテーション講習会実行委員会⑤	講習会実行委員会
11月7日	北海道 高次脳機能障害 リハビリテーション講習会	講習会実行委員会
12月8日	高次脳機能障害者 リハビリテーション講習会実行委員会⑥	講習会実行委員会
1月23日	釧根脳外傷リハビリテーション講習会	釧根脳外傷リハビリテーション講習会 実行委員会

5. 支援ネットワークの構築

ホームページやパンフレット、研修会等で当施設を知った関係機関からの支援法や情報を求める連絡を受け、これまで確立したネットワークをもとに情報の伝達を行った。また、ケースを通じて就労継続事業所や保健師、介護支援専門員、訪問リハスタッフなどで支援目標の確認を共同で行うことや研修会の企画を共同で行うことで、お互いに相談でき対応の調整がしやすくなった。

6. 講演・講師派遣

○ 高次脳機能障害リハビリテーション講習会について

北海道高次脳機能障害リハビリテーション講習会の実行委員会事務局として運営。

日時：11月7日（土） 13:00～16:00（オンライン開催）

テーマ：あなただけの物語がある～生きづらさと希望の会話からみえるヒント～

第1部 講演「あなただけの物語がある～生きづらさと希望の会話からみえるヒント～」

社会学の観点から物語（ナラティブ）について考える

講師：富山大学 教授 伊藤智樹 先生

第2部 Q&A コーナー

参加者：224名（当事者、家族、医療・福祉関係者等）

○普及啓発

対象：医療福祉系養成校学生、医療福祉専門職

講師：当法人 多機能型事業所こころカ・プロダクション 当事者2名

内容：当事者の体験談発表、質疑応答

実施回数：16回

ハ ひきこもり対策推進事業

- ① 北海道ひきこもり成年相談センターの運営
- ② 札幌市ひきこもり地域支援センターの運営

a 相談支援実施状況

1. 相談支援概要

○相談件数（北海道）（単位：件）

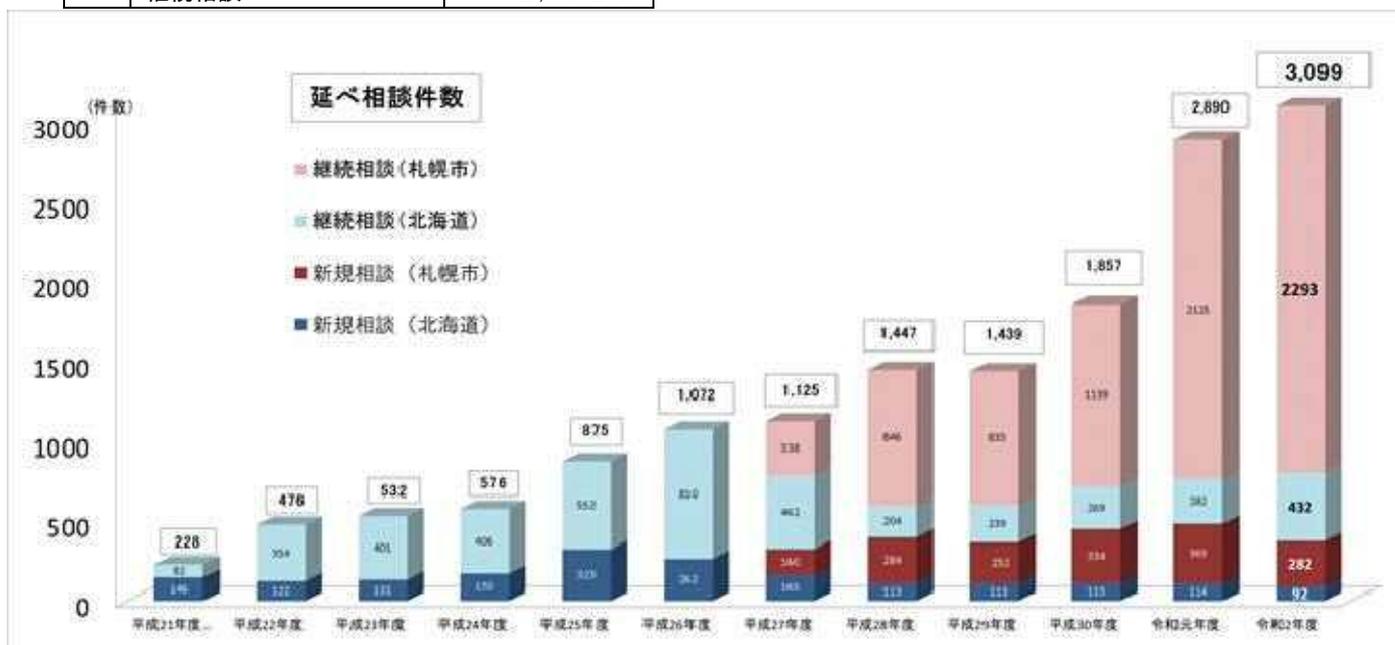
相談件数計	524
新規相談	92
継続相談	432

○相談件数（札幌市）

相談件数計	2,575
新規相談	282
継続相談	2,293

○相談件数（合計）

相談件数計	3,099
新規相談	374
継続相談	2,725



2. 相談方法別内訳

○相談方法内訳（北海道）

	新規	継続	計	構成比
電話	68	53	121	21.1%
来所	2	98	100	17.4%
メール	14	275	289	50.3%
アウトリーチ	7	6	13	2.3%
出張相談等	1	0	1	0.2%
小計	92	432	524	-
連携	-	50	50	8.7%
ケア会議	-	-	-	-
計	92	482	574	100%

○相談方法内訳（札幌市）

	新規	継続	計	構成比
電話	209	263	472	17.2%
来所	17	825	842	30.7%
メール	34	989	1,023	37.3%
アウトリーチ	4	175	179	6.5%
出張相談等	18	41	59	2.2%
小計	282	2,293	2,575	-
連携	-	167	167	6.1%
ケア会議	-	-	-	-
計	282	2,460	2,742	100%

○相談方法内訳（合計）

	新規	継続	計	構成比
電話	277	316	593	17.9%
来所	19	923	942	28.4%
メール	48	1264	1312	39.6%
アウトリーチ	11	181	192	5.8%
出張相談等	19	41	60	1.8%
小計	374	2725	3099	-
連携	-	217	217	6.5%
ケア会議	-	-	-	-
計	374	2942	3316	100%

3. 相談時間

○相談時間（北海道）

	0～ 15分未満	15～ 30分未満	30～ 60分未満	60分以上	合計	延べ相談 時間 (時：分)	平均 所要時間
電話	17	46	48	10	121	61:15	30分
来所	2	9	43	46	100	87:15	52分
メール	209	57	21	2	289	65:25	14分
アウトリーチ	3		4	6	13	14:20	1時間6分
出張相談等				1	1	1:00	60分
連携	21	23	3	3	50	15:50	19分
ケア会議	-	-	-	-	-	-	-
計	252	135	119	68	574	245:5	26分

○相談時間（札幌市）

	0～ 15分未満	15～ 30分未満	30～ 60分未満	60分以上	合計	延べ相談 時間 (時：分)	平均 所要時間
電話	116	176	146	34	472	205:19	26分
来所	58	88	298	398	842	742:18	53分
メール	796	199	25	3	1,023	204:30	12分
アウトリーチ	4	9	19	147	179	256:56	1時間26分
出張相談等		4	4	51	59	67:25	1時間9分
連携	74	60	17	16	167	56:20	20分
計	1,048	536	509	649	2,742	1,532:48	34分

○相談時間（合計）

	0～ 15分未満	15～ 30分未満	30～ 60分未満	60分以上	合計	延べ相談 時間 (時：分)	平均 所要時間
電話	133	222	194	44	593	266:34	28分
来所	60	97	341	444	942	829:33	53分
メール	1005	256	46	5	1312	269:55	13分
アウトリーチ	7	9	23	153	192	218:50	1時間16分
出張相談等	0	4	4	52	60	68:25	1時間5分
連携	95	83	20	19	217	72:10	20分
計	1,300	671	628	717	3,316	1,725:27	30分

4. 相談者内訳

○相談者内訳（北海道）

	件数	構成比
本人	18	19.6%
父	6	6.5%
母	26	28.3%
兄弟姉妹等	23	25.0%
その他	18	19.6%
不明	1	1.1%
計	92	100%

○相談者内訳（札幌市）

	件数	構成比
本人	50	17.7%
父	31	11.0%
母	99	35.1%
両親	6	2.1%
兄弟姉妹等	54	19.1%
その他	42	14.9%
計	282	100%

○相談者内訳（合計）

	件数	構成比
本人	68	18.2%
父	37	9.9%
母	125	33.4%
両親	6	1.6%
兄弟姉妹等	77	20.6%
その他	60	16.0%
不明	1	0.3%
計	374	100%

5. 当事者の年齢

○当事者の年齢（北海道）

	男	女	不明	計	構成比
10歳未満					0.0%
10歳以上～15歳未満	1	1	1	3	3.3%
15歳以上～20歳未満	10	1		11	12.0%
20歳以上～30歳未満	14	6		20	21.7%
30歳以上～40歳未満	16	7		23	25.0%
40歳以上～50歳未満	9	7		16	17.4%
50歳以上～60歳未満	5	3		8	8.7%
60歳以上	1	1		2	2.2%
不明	6	1	2	9	9.8%
計	62	27	3	92	100%

○当事者の年齢（札幌市）

	男	女	不明	計	構成比
10歳未満					0.0%
10歳以上～15歳未満	9	3		12	4.3%
15歳以上～20歳未満	34	15		49	17.4%
20歳以上～30歳未満	43	10	1	54	19.1%
30歳以上～40歳未満	43	18		61	21.6%
40歳以上～50歳未満	39	9		48	17.0%
50歳以上～60歳未満	25	9		34	12.1%
60歳以上	2	1		3	1.1%
不明	12	8	1	21	7.4%
計	207	73	2	282	100%

○当事者の年齢（合計）

	男	女	不明	計	構成比
10歳未満	0	0	0	0	0.0%
10歳以上～15歳未満	10	4	1	15	4.0%
15歳以上～20歳未満	44	16	0	60	16.0%
20歳以上～30歳未満	57	16	1	74	19.8%
30歳以上～40歳未満	59	25	0	84	22.5%
40歳以上～50歳未満	48	16	0	64	17.1%
50歳以上～60歳未満	30	12	0	42	11.2%
60歳以上	3	2	0	5	1.3%
不明	18	9	3	30	8.0%
計	269	100	5	374	100%

6. 当事者の居住地

○当事者の居住地

(北海道)



(札幌市)

本人居住地	件数	構成比
札幌市内	31	11.0%
白石区	34	12.1%
豊平区	28	9.9%
厚別区	17	6.0%
手稲区	14	5.0%
清田区	7	2.5%
中央区	32	11.3%
東区	41	14.5%
西区	32	11.3%
南区	17	6.0%
北区	29	10.3%
計	282	100%

7. 連携状況

	北海道	札幌市
他機関への繋ぎ	35	108
他機関からの繋ぎ	16	66
小計	51	174
主な機関	保健所 市町村 若者サポートステーション 医療機関（精神科）等	各区福祉課・保護課 医療機関（精神科） 社会福祉協議会 民間企業 医療機関（他科） 若者サポートステーション 等

8. ひきこもり相談から当法人の精神科デイケアを活用したケース

○精神科デイケアへの通所（北海道）

	人数
令和2年度	0名
平成21～令和元年度	38名
計	38名

○精神科デイケアへの通所（札幌市）

	人数
令和2年度	8名
平成27年度～令和元年度	24名
計	32名

○精神科デイケアへの通所（合計）

	人数
令和2年度	8名
平成27年度～令和元年度	62名
計	70名

○ひきこもり外来状況（北海道）

年度	平成21年-令和元年度	令和2年度	計
延べ回数	320回	42回	362回
新規ケース	62名	3名	65名

○ひきこもり外来状況（札幌市）

年度	平成27-令和元年度	令和2年度	計
延べ回数	695回	434回	1,129回
新規ケース	69名	19名	88名

○ひきこもり外来状況（合計）

年度	平成27-令和元年度	令和2年度	計
延べ回数	1,015回	476回	1,491回
新規ケース	131名	22名	153名

b 支援ネットワークの構築等

1. ひきこもり支援者連絡会議実施状況（北海道）

当年度も、「ひきこもり相談会・研修会」として、各保健所および市町村に希望確認をし、希望のあった地域と連絡調整をし、相談会等を実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止をふまえ開催を中止した地域が4ヶ所、動画配信研修会に振り替えた地域が3ヶ所ある。希望確認の項目と実施状況は以下のとおり。

〈希望確認項目〉

- ①関わっている機関の職員が集まってのケース検討会
 ②個別相談（当事者、家族） ③ひきこもりに関する研修会 ④その他

月	日	実施内容	備考
10	6	中富良野町（富良野保健所） ひきこもり研修会	ケース検討
10	20	ひだか町（静内保健所） ひきこもり研修会	研修会講師
10	29	帯広市・浦幌町・大樹町（帯広保健所） ひきこもり研修会・架空ケース検討	研修会講師 架空ケース検討

月	日	実施内容	備考
10	6	中富良野町（富良野保健所） ひきこもり研修会	ケース検討
10	20	ひだか町（静内保健所） ひきこもり研修会	研修会講師
10	30	新得町（帯広保健所） ひきこもり研修会	研修会講師
11	16	知内町（渡島保健所） ひきこもり研修会	研修会講師
11	17	北斗市（渡島保健所） ひきこもり研修会	研修会講師
11	27	名寄市・士別市（名寄保健所） ひきこもり研修会	研修会講師 ※オンライン
12	3	北広島市（千歳保健所） ケース検討	ケース検討 ※オンライン
12	14	紋別市（紋別保健所） 打ち合わせ	次年度打ち合わせ等 ※オンライン
12	16	足寄町（帯広保健所） 研修会	研修会講師
12	17	訓子府町（北見保健所） ケース検討	ケース検討
2	17	南幌町（岩見沢保健所） ケース検討	ケース検討
2	24	稚内市（稚内保健所） 研修会	研修会講師 ※オンライン

2 ひきこもり出張無料相談会・よりどころ実施状況（札幌市）

○ひきこもり出張無料相談会実施状況

当センターの通常相談の開設日は平日の日中である。相談者によっては、平日の日中は「仕事があり相談ができない」等、多様なニーズが考えられる。そのため、「ひきこもり出張無料相談会」は各月4回程度（平日水曜日2回、土曜日・日曜日1回ずつ）13:30～16:00に実施した(1回あたり最大4件まで予約可)。

「ひきこもり出張無料相談会」の実施にあたっては、当センターのホームページ、新聞掲載、広報さっぽろ（誌面、地デジ、アプリ）、10区役所・10区民センターおよび他関係機関へのチラシ配布等で周知を行った。特に、広報誌(配布)への掲載は市民からの反響が大きかった。各回、申込状況に合わせて、相談員を調整した。開催日、件数は以下の通りである。

4月		
日程	場所	相談件数
4月26日(日)	北区民センター⇒ひきこもり地域支援センター※	2件

5月		
日程	場所	相談件数
5月16日(土)	中央区民センター⇒中止	-
5月20日(水)	厚別区民センター⇒中止	-
5月24日(日)	手稲区民センター⇒中止	-
5月27日(水)	清田区役所⇒中止	-

6月		
日程	場所	相談件数
6月10日(水)	白石区民センター	-
6月13日(土)	豊平区民センター	1件
6月24日(水)	東区民センター	2件
6月28日(日)	南区民センター	1件

10月		
日程	場所	相談件数
10月14日(水)	北区民センター	4件
10月17日(土)	東区民センター	1件
10月25日(日)	厚別区民センター	3件
10月28日(水)	中央区民センター	2件

11月		
日程	場所	相談件数
11月11日(水)	白石区民センター	2件
11月21日(土)	西区民センター	-
11月25日(水)	手稲区民センター	2件

12月		
日程	場所	相談件数
12月9日(水)	豊平区民センター	1件
12月19日(土)	南区民センター	1件
12月23日(水)	清田区役所	1件

7月		
日程	場所	相談件数
7月8日(水)	西区民センター	1件
7月11日(土)	厚別区民センター	2件
7月26日(日)	清田区民センター	2件
7月29日(水)	北区民センター	3件

8月		
日程	場所	相談件数
8月12日(水)	中央区民センター	2件
8月22日(土)	白石区民センター	-
8月26日(水)	手稲区民センター	3件
8月30日(日)	東区民センター	4件

9月		
日程	場所	相談件数
9月9日(水)	豊平区民センター	2件
9月18日(金)	白石区民センター(さっぽろ若者サポートステーション合同事業説明会)	3件
9月19日(土)	清田区民センター	-
9月27日(日)	西区民センター	2件
9月30日(水)	南区民センター	1件

1月		
日程	場所	相談件数
1月10日(日)	北区民センター	2件
1月23日(土)	中央区民センター	3件

2月		
日程	場所	相談件数
2月10日(水)	厚別区民センター	-
2月20日(土)	手稲区民センター	1件
2月24日(水)	東区民センター	2件
2月28日(日)	白石区民センター	-

3月		
日程	場所	相談件数
3月10日(水)	南区民センター	2件
3月24日(水)	西区民センター	1件
3月28日(日)	豊平区民センター	1件

※新型コロナウイルスの影響から、4月はひきこもり地域支援センターにて開催した。5月は中止とした。

- ・9月18日(金)に、若者サポートステーションと合同説明会を行った。
- ・当年度の「ひきこもり出張無料相談会」は、相談数59件(うち新規相談18件)。相談者数が最も多かった区は北区、次いで東区、中央区となっている。
- ・当センター(白石区)から遠方の区や、交通機関等の利便性の高い区に相談数が多いことが窺える。
- ・北海道新聞「さっぽろ10区」に掲載し周知宣伝した。2020年6月～2021年2月(計8回)。

○居場所「よりどころ」(親の会・当事者会)への専門職の派遣

NPO法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワークが実施している「よりどころ」に月2回参加し、精神保健福祉士等の専門職が相談に対応できるような体制を確保している。よりどころから新規相談に繋がったケースや、以前相談歴があり、よりどころがきっかけで再相談に至ったケースもあった。また、当センターの相談者が「親の会・当事者会」に繋がるケースもあり、社会資源の1つになっている。毎月第4週目に関しては、「学習会」として、「親の接し方や声掛け、病気や障害について等」、当センターから参加者に向けて伝えた。新型コロナウイルスの影響から中止やオンライン開催もあった。

<親の会>

月	日	実施内容	備考
4	13	よりどころ 親の会①※中止	-
4	27	よりどころ 親の会②※オンライン	1名派遣
5	25	よりどころ 親の会③※オンライン	1名派遣
6	8	よりどころ 親の会④	1名派遣
6	22	よりどころ 親の会⑤	2名派遣
7	27	よりどころ 親の会⑥	2名派遣
8	24	よりどころ 親の会⑦	1名派遣

月	日	実施内容	備考
9	14	よりどころ 親の会⑧	1名派遣
9	28	よりどころ 親の会⑨	1名派遣
10	26	よりどころ 親の会⑩	1名派遣
11	23	よりどころ 親の会⑪	1名派遣
12	28	よりどころ 親の会⑫	1名派遣
1	11	よりどころ 親の会⑬	1名派遣
1	25	よりどころ 親の会⑭	1名派遣
2	22	よりどころ 親の会⑮	2名派遣
3	8	よりどころ 親の会⑯	1名派遣
3	22	よりどころ 親の会⑰	1名派遣

<当事者会>

月	日	実施内容	備考
4	20	よりどころ 当事者会①※オンライン	1名派遣
5	18	よりどころ 当事者会②※オンライン	2名派遣
6	1	よりどころ 当事者会③	1名派遣
7	6	よりどころ 当事者会④	1名派遣
7	20	よりどころ 当事者会⑤	1名派遣
8	3	よりどころ 当事者会⑥	1名派遣
8	17	よりどころ 当事者会⑦	2名派遣
9	7	よりどころ 当事者会⑧	1名派遣
10	5	よりどころ 当事者会⑨	1名派遣
10	19	よりどころ 当事者会⑩	2名派遣
11	2	よりどころ 当事者会⑪	1名派遣
12	7	よりどころ 当事者会⑫	1名派遣
12	21	よりどころ 当事者会⑬	1名派遣
1	18	よりどころ 当事者会⑭	1名派遣
2	1	よりどころ 当事者会⑮	1名派遣
2	15	よりどころ 当事者会⑯	1名派遣
3	1	よりどころ 当事者会⑰	2名派遣
3	15	よりどころ 当事者会⑱	1名派遣

3 ネットワーク構築状況

北海道・札幌市ともに、関係機関に対する事業概要説明等を行った。各市町村、保健所からの問い合わせ、議員の見学来所、民間企業からの問い合わせ、インタビューや調査協力などがあげられる。

○事業概要説明等

月	日	実施内容	備考
4	15	深川保健所より問い合わせ（対象年齢について）	電話
5	12	KHJ 全国ひきこもり家族会連合会より取材	オンライン
5	15	東大阪市生活支援課より問い合わせ（対応方法等）	電話
6	1	北海道通信社 沖縄県石垣市教育委員会から問い合わせ（実態調査について）	電話
6	3	千歳市保健福祉課より議会質問（ひきこもりサポーター派遣について）	電話
6	9	朝日新聞より電話取材（八雲町での事件について）	電話
8	4	毎日新聞より電話取材（8050 問題、相談件数について）	電話
12	2	滝川市役所福祉課より問い合わせ（滝川市在住の相談者実人数について）	電話
12	2	札幌市生活就労支援センター ステップ（事業等について共有）	来所
1	8	北海道障害福祉課より問い合わせ「函館市との相談等、連携状況について」等	電話
1	27	KHJ 全国ひきこもり家族会連合会より問い合わせ 「ひきこもり支援のための家族会の設置状況」調査について	書面
3	25	北海道精神障害者家族会連合会より「ひきこもり事例検討」について来年度の打ち合わせ	電話

○ひきこもり支援関係者研修会実施状況

月	日	実施内容	備考
3	1～21	令和2年度 ひきこもり支援機関関係職員等研修会 「ひきこもり相談の実際～架空事例から学ぶ」 インターネット配信期間：3/1(月)～3/21(日) 参加者居住地内訳：北海道(札幌市以外)242名、札幌市95名	※ひきこもり支援機関関係職員等研修会と同時開催 ※講師：コーディネーター4名

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から座学研修ではなく、録画配信による「インターネット配信」研修会とした。申込者にはパスワードを通知し限定公開とし、3週間（24時間いつでも）閲覧できるよう工夫を凝らした。

○ひきこもり関連会議参加状況

月	日	実施内容	備考
7	21	第1回さっぽろ子ども・若者支援地域協議会	1名参加
10	9	第2回さっぽろ子ども・若者支援地域協議会	1名参加
12	8	北海道地域若者サポートステーション連絡会議（オンライン・書面会議）	1名参加
2	5	第3回さっぽろ子ども・若者支援地域協議会（オンライン・書面会議） 子ども・若者支援セミナー「民間支援活動から10代女子の恋愛と性に潜むリスクを学ぶ」	2名参加
3	8	第4回さっぽろ子ども・若者支援地域協議会（書面会議）	-

○講師派遣状況等

月	日	実施内容	備考
11	16	札幌市 北区家庭生活カウンセラークラブ 学習会	1名派遣
12	11	発達障がい特性を背景に持つ8050問題への対応 vol.3 主催：社会福祉法人はるにれの里	1名派遣
3	17 18	札幌市民生委員協議会 研修会 「ひきこもりの理解と支援について～民生委員・児童委員としてできること～」	1名派遣

○外部研修参加状況等

月	日	実施内容	備考
6	21	北海道集団療法研究会第17回学術研修会 「みんなのひきこもり時代におけるグループ」 主催：北海道集団療法研究会	1名参加 ※オンライン研修
10	17	長期化するひきこもり家庭のコミュニケーション不全 主催：NPO 法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク	1名参加

○ひきこもりサポーター養成研修事業

月	日	実施内容	備考
3	1～ 21	ひきこもりサポーター養成研修 「ひきこもり相談の実際～架空事例から学ぶ」 インターネット配信期間：3/1(月)～3/21(日) 参加者居住地内訳：北海道(札幌市以外)242名、札幌市95名	※ひきこもり支援機関関係職員等研修会と同時開催 ※講師：コーディネーター4名
3	22	ひきこもりサポーター養成協議会	※設置要綱 別紙2
		研修会撮影・編集・DVD作成の依頼 (就労継続支援B型事業所 ここりカ・プロダクション)	

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から座学研修ではなく、録画配信による「インターネット配信」研修会とした。申込者にはパスワードを通知し限定公開とし、3週間(24時間いつでも)閲覧できるよう工夫を凝らした。

※「ひきこもりサポーター養成協議会」において、今後のサポーターの活用方法、養成方法等について協議した。

※研修会アンケートと共に「ひきこもりサポーターの養成登録が本格化した場合にサポーター登録を希望するか」と希望調査も行っており、当年度は以下のような回答が得られた。

	北海道 (札幌市以外)	札幌市	計
希望する	28	6	34
検討中	47	12	59
しない	39	12	51
未記入	18	16	34
未返信	110	49	159
申込合計	242	95	337

c 普及啓発

相談先の掲載、インタビュー協力、リーフレット送付等により、ひきこもりに関する正しい知識の普及に努めた。

1. 普及啓発実施状況

月	日	実施内容	備考
5	12	北海道精神障害者家族会連合会へリーフレット送付	郵送
5	19	くらしの新聞社まんまる新聞「悩んでないで相談を」に掲載	相談先掲載
6	23	帯広市「ひきこもりや心の健康などに関する相談窓口」に掲載	相談先掲載
7	8	2021年版「民生委員・児童委員手帳」関係機関・団体一覧の掲載	相談先掲載
7	8	オホーツク若者サポートステーションより 「お仕事チャレンジ in 滝上」のチラシに掲載	相談先掲載
9	18	NHK報道局社会番組部ひきこもり取材班 「新型コロナウイルスの感染拡大」についてWEBアンケート	WEB回答
9	23	A大学より 「ひきこもり状態から就労・進学に至る要因の研究」アンケート調査協力	書面
9	30	B大学より 「ひきこもり」から回復に向かわせた要因に関する調査協力 ※当事者A氏、B氏に依頼	書面
10	6	平成24年度ひきこもりサポーター地域総合育成事業DVD貸出 社会福祉法人（精神障害）Aへ	郵送
1	22	厚生労働省委託事業 「ひきこもり状態にある方の社会参加に係る事例の調査・研究事業」への協力 ※当事者C氏に依頼	書面
1	27	就職氷河期世代のための合同特別相談会 リーフレット配架	郵送
2	17	北海道子ども若者支援協議会 相談先ホームページ掲載 小冊子について打ち合わせ	オンライン
-	-	道内保健所および市町村へリーフレット送付	郵送
-	-	市内高等学校へ向けたリーフレット送付	郵送

○講演会や研修会などを活用しひきこもり本人および本人に向けたリーフレットを適宜配布した。

2. インターネット利用（ホームページ）による情報発信

「ひきこもり」に対する理解の促進や相談先としての周知、支援団体や相談機関などとネットワークを構築するためホームページによる情報発信を行った。

ひきこもり相談ホームページアクセス件数

年度	件数	備考
令和2年度	19,640件	
令和元年度	23,001件	
30年度	20,320件	
29年度	19,876件	

年 度	件 数	備 考
28 年度	17,297 件	
27 年度	13,552 件	
26 年度	13,865 件	
25 年度	11,431 件	
24 年度	8,032 件	
23 年度	4,232 件	
22 年度	3,220 件	
21 年度	3,109 件	(9 ヶ月分)

○昨年度に比べ減少しているものの、相談方法ページの閲覧が7,046件あり、相談者が相談先を探す方法として活用されているものと思われる。

3 会 計 部 門

貸 借 対 照 表

令和 3年 3月31日現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	32,928,787	13,965,618	18,963,169
普通預金	32,928,787	13,965,618	18,963,169
北洋銀行－大通	1,059,709	300,000	759,709
北海道銀行－白石	1,108,261	432,757	675,504
北洋銀行－本店営業部	187,000		187,000
北洋銀行－白石中央①	29,571,299	12,443,240	17,128,059
ゆうちょ銀行	1,002,518	789,621	212,897
未収金	17,849,546	17,346,824	502,722
前払金	70,000	70,000	
流動資産合計	50,848,333	31,382,442	19,465,891
2 固定資産			
(1) 基本財産			
投資有価証券	49,982,970	49,982,970	
投資有価証券(指定)	49,982,970	49,982,970	
諸貯金	17,030	17,030	
諸貯金(指定)	17,030	17,030	
基本財産合計	50,000,000	50,000,000	
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	52,138,915	47,621,036	4,517,879
退職給付引当資産(その他)	52,138,915	47,621,036	4,517,879
減価償却引当資産	39,471,608	39,471,608	
減価償却引当資産(一般)	39,471,608	39,471,608	
土地	347,016,000	347,016,000	
土地(指定)	347,016,000	347,016,000	
建物	497,434,011	497,434,011	
建物(指定)	483,545,000	483,545,000	
建物(一般)	13,889,011	13,889,011	
什器備品	24,030,809	24,030,809	
什器備品(指定)	7,927,600	7,927,600	
什器備品(一般)	16,103,209	16,103,209	
減価償却累計額 △	414,090,051	404,225,183	9,864,868
建物	381,301,512	372,664,339	8,637,173
什器備品	7,927,577	7,927,577	
建物(一般)	9,758,089	9,004,727	753,362
什器備品(一般)	15,102,873	14,628,540	474,333
特定資産合計	546,001,292	551,348,281	△5,346,989
(3) その他固定資産			
構築物	7,414,959	7,414,959	
車両運搬具	2,207,755	2,207,755	
減価償却累計額 △	9,298,220	9,112,347	185,873
構築物	7,090,467	6,904,594	185,873
車両運搬具	2,207,753	2,207,753	
電話加入権	352,024	352,024	
預託金	45,460	45,460	
その他固定資産合計	721,978	907,851	△185,873
固定資産合計	596,723,270	602,256,132	△5,532,862
資産の部合計	647,571,603	633,638,574	13,933,029
II 負債の部			
1 流動負債			

貸借対照表

令和 3年 3月31日現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
未払金	6,516,657	4,073,922	2,442,735
未払消費税等	1,001,200	631,500	369,700
預り金	1,040,767	842,834	197,933
社会保険料	815,617	836,049	△20,432
その他	225,150	6,785	218,365
流動負債合計	8,558,624	5,548,256	3,010,368
2 固定負債			
長期借入金	25,000,000		25,000,000
退職給付引当金	52,138,915	47,621,036	4,517,879
退職給付引当金(事)	47,446,412	43,335,142	4,111,270
退職給付引当金(管)	4,692,503	4,285,894	406,609
固定負債合計	77,138,915	47,621,036	29,517,879
負債の部合計	85,697,539	53,169,292	32,528,247
Ⅲ 正味財産の部			
1 指定正味財産			
地方公共団体補助金	122,243,512	130,880,685	△8,637,173
民間助成金	5,205	36,421	△31,216
寄付金	30,000,000	30,000,000	
受贈土地	347,016,000	347,016,000	
指定正味財産合計	499,264,717	507,933,106	△8,668,389
(うち基本財産への充当額)	(50,000,000)	(50,000,000)	()
(うち特定資産への充当額)	(449,259,511)	(457,896,684)	(△8,637,173)
2 一般正味財産	62,609,347	72,536,176	△9,926,829
(うち特定資産への充当額)	(44,602,866)	(45,830,561)	(△1,227,695)
正味財産の部合計	561,874,064	580,469,282	△18,595,218
負債及び正味財産合計	647,571,603	633,638,574	13,933,029

正味財産増減計算書

令和 2年 4月 1日から令和 3年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	239,276	239,276	
基本財産受取利息	239,276	239,276	
特定資産運用益	616	936	△320
特定資産受取利息	616	936	△320
事業収益	97,965,817	100,569,067	△2,603,250
診療収益	59,249,373	69,068,216	△9,818,843
研修事業収益		272,000	△272,000
就労支援事業収益	6,071,760	3,054,780	3,016,980
訓練等給付費収益	28,738,834	26,758,465	1,980,369
就労支援自己負担金収益	368,200	536,800	△168,600
計画相談支援給付費収益	565,554	534,886	30,668
その他の事業収益	2,972,096	343,920	2,628,176
受取補助金等	36,770,843	33,404,123	3,366,720
受取補助金等振替額	8,668,389	8,668,389	
北海道委託金	13,506,554	13,364,714	141,840
札幌市委託金	14,595,900	11,203,020	3,392,880
札幌市補助金		168,000	△168,000
受取寄付金	347,400	356,300	△8,900
受取寄付金	347,400	356,300	△8,900
雑収益	353,934	552,952	△199,018
受取利息	759	890	△131
雑収益	353,175	552,062	△198,887
経常収益計	135,677,886	135,122,654	555,232
(2) 経常費用			
事業費	129,035,254	126,389,979	2,645,275
給料手当	63,470,168	66,538,068	△3,067,900
臨時雇賃金	11,903,820	10,015,722	1,888,098
退職給付費用	4,111,270	3,118,422	992,848
福利厚生費	11,306,734	11,394,932	△88,198
旅費交通費	538,580	1,598,777	△1,060,197
通信運搬費	675,259	652,910	22,349
減価償却費	9,412,611	9,449,140	△36,529
消耗什器備品費	1,289,236	304,480	984,756
消耗品費	3,207,384	2,762,671	444,713
修繕費	47,294	501,110	△453,816
印刷製本費	164,340	147,784	16,556
燃料費	1,128,754	1,325,631	△196,877
光熱水料費	2,233,558	2,241,613	△8,055
賃借料	1,520,883	1,989,147	△468,264
保険料	485,815	564,072	△78,257
諸謝金	2,017,000	2,284,500	△267,500
租税公課	1,665,012	1,255,007	410,005
支払負担金	341,104	488,778	△147,674
委託費	5,513,558	5,339,023	174,535
医薬材料費	10,339	2,711	7,628
デイケア材料費	898,149	905,841	△7,692
利用者工賃	6,260,645	2,538,880	3,721,765
支払手数料	813,151	970,760	△157,609

正味財産増減計算書

令和 2年 4月 1日から令和 3年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
支払利息	20,590		20,590
管理費	16,569,461	17,405,489	△836,028
役員報酬	33,300	59,200	△25,900
給料手当	11,528,908	12,281,987	△753,079
臨時雇賃金	42,992	11,585	31,407
退職給付費用	406,609	308,416	98,193
福利厚生費	2,059,862	2,061,835	△1,973
会議費		18,282	△18,282
旅費交通費	3,700	20,160	△16,460
通信運搬費	74,414	62,047	12,367
減価償却費	638,130	638,300	△170
消耗什器備品費		27,720	△27,720
消耗品費	132,078	148,941	△16,863
修繕費	938	27,234	△26,296
燃料費	77,712	92,478	△14,766
光熱水料費	140,302	134,836	5,466
賃借料	68,738	58,974	9,764
保険料	53,705	67,528	△13,823
租税公課	17,038	66,893	△49,855
支払負担金	55,146	55,146	
雑費	46,994	48,588	△1,594
支払手数料	96,949	144,916	△47,967
委託費	1,091,946	1,070,423	21,523
経常費用計	145,604,715	143,795,468	1,809,247
評価損益等調整前当期経常増減額	△9,926,829	△8,672,814	△1,254,015
評価損益等計			
当期経常増減額	△9,926,829	△8,672,814	△1,254,015
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計			
(2) 経常外費用			
経常外費用計			
当期経常外増減額			
税引前当期一般正味財産増減額	△9,926,829	△8,672,814	△1,254,015
当期一般正味財産増減額	△9,926,829	△8,672,814	△1,254,015
一般正味財産期首残高	72,536,176	81,208,990	△8,672,814
一般正味財産期末残高	62,609,347	72,536,176	△9,926,829
II 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	8,668,389	8,668,389	
一般正味財産への振替額	8,668,389	8,668,389	
当期指定正味財産増減額	△8,668,389	△8,668,389	
指定正味財産期首残高	507,933,106	516,601,495	△8,668,389
指定正味財産期末残高	499,264,717	507,933,106	△8,668,389
III 正味財産期末残高	561,874,064	580,469,282	△18,595,218

正味財産増減計算書内訳表
令和 2年 4月 1日から令和 3年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	(公財) 北海道精神保健推進協会			合 計
	公益目的事業会計	法人会計	内部取引消去	
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益		239,276		239,276
基本財産受取利息		239,276		239,276
特定資産運用益	560	56		616
特定資産受取利息	560	56		616
事業収益	83,189,929	15,656,999	△881,111	97,965,817
診療収益	43,592,374	15,656,999		59,249,373
就労支援事業収益	6,952,871		△881,111	6,071,760
訓練等給付費収益	28,738,834			28,738,834
就労支援自己負担金収益	368,200			368,200
計画相談支援給付費収益	565,554			565,554
その他の事業収益	2,972,096			2,972,096
受取補助金等	36,192,153	578,690		36,770,843
受取補助金等振替額	8,089,699	578,690		8,668,389
北海道委託金	13,506,554			13,506,554
札幌市委託金	14,595,900			14,595,900
受取寄付金	347,400			347,400
受取寄付金	347,400			347,400
雑収益	318,934	35,000		353,934
受取利息	759			759
雑収益	318,175	35,000		353,175
経常収益計	120,048,976	16,510,021	△881,111	135,677,886
(2) 経常費用				
事業費	129,916,365		△881,111	129,035,254
給料手当	63,470,168			63,470,168
臨時雇賃金	11,903,820			11,903,820
退職給付費用	4,111,270			4,111,270
福利厚生費	11,306,734			11,306,734
旅費交通費	538,580			538,580
通信運搬費	675,259			675,259
減価償却費	9,412,611			9,412,611
消耗什器備品費	1,289,236			1,289,236
消耗品費	3,207,384			3,207,384
修繕費	47,294			47,294
印刷製本費	164,340			164,340
燃料費	1,128,754			1,128,754
光熱水料費	2,233,558			2,233,558
賃借料	1,520,883			1,520,883
保険料	485,815			485,815
諸謝金	2,017,000			2,017,000
租税公課	1,665,012			1,665,012
支払負担金	341,104			341,104
委託費	5,513,558			5,513,558
医薬材料費	10,339			10,339
デイケア材料費	898,149			898,149
利用者工賃	6,260,645			6,260,645
支払手数料	1,694,262		△881,111	813,151
支払利息	20,590			20,590
管理費		16,569,461		16,569,461
役員報酬		33,300		33,300
給料手当		11,528,908		11,528,908
臨時雇賃金		42,992		42,992
退職給付費用		406,609		406,609
福利厚生費		2,059,862		2,059,862
旅費交通費		3,700		3,700
通信運搬費		74,414		74,414
減価償却費		638,130		638,130
消耗品費		132,078		132,078
修繕費		938		938

正味財産増減計算書内訳表

令和 2年 4月 1日から令和 3年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	(公財) 北海道精神保健推進協会			合 計
	公益目的事業会計	法人会計	内部取引消去	
燃料費		77,712		77,712
光熱水料費		140,302		140,302
賃借料		68,738		68,738
保険料		53,705		53,705
租税公課		17,038		17,038
支払負担金		55,146		55,146
雑費		46,994		46,994
支払手数料		96,949		96,949
委託費		1,091,946		1,091,946
経常費用計	129,916,365	16,569,461	△881,111	145,604,715
評価損益等調整前当期経常増減額	△9,867,389	△59,440		△9,926,829
評価損益等計				
当期経常増減額	△9,867,389	△59,440		△9,926,829
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計				
(2) 経常外費用				
経常外費用計				
当期経常外増減額				
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△9,867,389	△59,440		△9,926,829
税引前当期一般正味財産増減額	△9,867,389	△59,440		△9,926,829
当期一般正味財産増減額	△9,867,389	△59,440		△9,926,829
一般正味財産期首残高	65,645,984	6,890,192		72,536,176
一般正味財産期末残高	55,778,595	6,830,752		62,609,347
II 指定正味財産増減の部				
一般正味財産への振替額	8,089,699	578,690		8,668,389
一般正味財産への振替額	8,089,699	578,690		8,668,389
当期指定正味財産増減額	△8,089,699	△578,690		△8,668,389
指定正味財産期首残高	500,504,093	7,429,013		507,933,106
指定正味財産期末残高	492,414,394	6,850,323		499,264,717
III 正味財産期末残高	548,192,989	13,681,075		561,874,064

財 産 目 録

令和 3年 3月31日 現在

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)			
現金預金 普通預金 未収金 前払金	北洋銀行白石中央支店他5口座 診療報酬、診療報酬自己負担分他 前払家賃	運転資金として	32,928,787 32,928,787 17,849,546 70,000
流動資産合計			50,848,333
(固定資産)			
基本財産			
投資有価証券	札幌市平成27年度第9回公募公債他	管理活動財産として運用益を管理費の財源として使用している。	49,982,970
諸貯金	北洋銀行白石中央支店	管理活動財産として運用益を管理費の財源として使用している。	17,030
退職給付引当資産	定期預金・普通預金 北洋銀行白石中央支店他2口座	右記金額のうち、47,446,412円は公益目的事業会計の引当資産であり、退職給付引当資産として管理されている預金。	52,138,915
特定資産			
減価償却引当資産	定期預金・普通預金 北洋銀行白石中央支店他2口座	右記金額のうち、4,692,503円は法人会計の引当資産であり、退職給付引当資産として管理されている預金。 右記金額のうち、36,827,010円は公益目的事業会計の引当資産であり、資産取得資金として管理されている預金。	39,471,608
土地	4,819.66㎡ 札幌市白石区平和通17丁目北1番13号	右記金額のうち、2,644,598円は法人会計の引当資産であり、資産取得資金として管理されている預金。 公益目的保有財産であり、公益目的事業の施設に使用している。	347,016,000
建物	1,793.7㎡ 札幌市白石区平和通17丁目北1番13号	右記金額のうち、464,243,115円は公益目的保有財産であり、公益目的事業の施設に使用している。	497,434,011
什器備品	応接セット他65点	右記金額のうち、23,920,264円は公益目的保有財産であり、公益目的事業において使用している。 右記金額のうち、110,545円は管理活動財産であり、法人会計において使用している。	24,030,809
減価償却累計額 △			414,090,051
その他固定資産			

財 産 目 録

令和 3年 3月31日 現在

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
構築物	館名板他3点	公益目的保有財産であり、公益目的事業の設備として使用している。	7,414,959
車両運搬具	ホンダ ストリーム他1台	右記金額のうち、2,041,855円は公益目的保有財産であり、公益目的事業において使用している。	2,207,755
減価償却累計額 △ 電話加入権	日本電信電話㈱	右記金額のうち、165,900円は管理活動財産であり、法人会計において使用している。	9,298,220
預託金	リサイクル預託金 車輛2台分・事業所敷金	公益目的保有財産であり、公益目的事業において使用している。 公益目的保有財産であり、公益目的事業において使用している。車輛運搬具に係るリサイクル料及び事業所敷金である。	352,024 45,460
固定資産合計			596,723,270
資産合計			647,571,603
(流動負債)	職員及び商業者等に対する未払額 令和2年度消費税 社会保険料職員自己負担分他	公益目的事業会計及び法人会計での給与手当及び経常経費の未払分である。	6,516,657
未払金			1,001,200
未払消費税等 預り金			1,040,767
流動負債合計			8,558,624
(固定負債)	長期借入金 退職給付引当金	職員に対する退職金の支払いに備えたものである。	25,000,000
長期借入金	独立行政法人福祉医療機構 職員に対するもの		52,138,915
退職給付引当金			77,138,915
固定負債合計			85,697,539
負債合計			561,874,064
正味財産			

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

個別原価法

(2) 固定資産の減価償却の方法

定額法

(3) 引当金の計上基準

従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上している。

(4) 消費税等の会計処理

税込方式

2. 会計方針の変更

該当なし

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
投資有価証券	49,982,970			49,982,970
諸貯金	17,030			17,030
小 計	50,000,000	0	0	50,000,000
特定資産				
土地	347,016,000			347,016,000
建物	115,764,945		9,390,535	106,374,410
什器備品	1,474,692		474,333	1,000,359
退職給付引当資産	47,621,036	4,517,879		52,138,915
減価償却引当資産	39,471,608			39,471,608
小 計	551,348,281	4,517,879	9,864,868	546,001,292
合 計	601,348,281	4,517,879	9,864,868	596,001,292

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味 財産からの充当 額)	(うち一般正味 財産からの充当 額)	(うち負債に対 応する額)
基本財産				
投資有価証券	49,982,970	49,982,970		
諸貯金	17,030	17,030		
小 計	50,000,000	50,000,000	0	0
特定資産				
土地	347,016,000	347,016,000		
建物	106,374,410	102,243,488	4,130,922	
什器備品	1,000,359	23	1,000,336	
退職給付引当資産	52,138,915			52,138,915
減価償却引当資産	39,471,608		39,471,608	
小 計	546,001,292	449,259,511	44,602,866	52,138,915
合 計	596,001,292	499,259,511	44,602,866	52,138,915

5. 担保に供している資産

該当なし

6. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高（貸倒引当金を直接控除した残額のみを記載した場合）
債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高は次のとおりである。

(単位：円)

科 目	債権金額	貸倒引当金の当期末残高	債権の当期末残高
未収金	17,849,546		17,849,546
合 計	17,849,546	0	17,849,546

7. 保証債務（債務保証を主たる目的事業としている場合を除く。）等の偶発債務
該当なし

8. 満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益
満期保有目的の債権並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	帳簿価額	時価	評価損益
北海道平成25年度第15回公募公債	30,022,955	30,582,000	559,045
札幌市平成27年度第9回公募公債	19,960,015	20,172,000	211,985
合 計	49,982,970	50,754,000	771,030

9. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高
補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
委託金						
地域移行支援事業	北海道		7,262,554	7,262,554	0	一般正味財産
高次脳機能事業	〃		1,597,000	1,597,000	0	一般正味財産
ひきこもり事業	〃		4,647,000	4,647,000	0	一般正味財産
ひきこもり事業	札幌市		14,595,900	14,595,900	0	一般正味財産
補助金						
コロナ支援交付金	国保連合会		1,731,000	1,731,000	0	一般正味財産
家賃補助金	札幌市		500,000	500,000	0	一般正味財産
民間助成金					0	
赤い羽根助成	札幌市共募	36,421		31,216	5,205	指定正味財産
合 計		36,421	30,333,454	30,364,670	5,205	

10. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳
指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

内 容	金額
経常収益への振替額	
減価償却費計上による振替額	8,668,389
合 計	8,668,389

11. 関連当事者との取引の内容
該当なし

12. 重要な後発事象
該当なし

13. その他
該当なし

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

(単位：円)

区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
基本財産	投資有価証券	49,982,970			49,982,970
	諸貯金	17,030			17,030
	基本財産計	50,000,000	0	0	50,000,000
特定資産	土地	347,016,000			347,016,000
	建物	115,764,945		9,390,535	106,374,410
	什器備品	1,474,692		474,333	1,000,359
	退職給付引当資産	47,621,036	4,517,879		52,138,915
	減価償却引当資産	39,471,608			39,471,608
	特定資産計	551,348,281	4,517,879	9,864,868	546,001,292

2. 引当金の明細

(単位：円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	47,621,036	4,517,879			52,138,915

収 支 計 算 書

令和 2年 4月 1日から令和 3年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
(1) 基本財産運用収入	240,000	239,276	△724
基本財産利息収入	240,000	239,276	△724
(2) 特定資産運用収入	1,000	616	△384
特定資産利息収入	1,000	616	△384
(5) 事業収入	95,536,000	97,965,817	2,429,817
診療収入	58,252,000	59,249,373	997,373
研修事業収入	256,000	0	△256,000
就労支援事業収入	6,991,000	6,071,760	△919,240
訓練等給付費収入	26,746,000	28,738,834	1,992,834
就労支援自己負担金収入	562,000	368,200	△193,800
計画相談支援給付費収入	531,000	565,554	34,554
地域相談支援給付収入	67,000	0	△67,000
その他の事業収入	2,131,000	2,972,096	841,096
(6) 補助金等収入	29,104,000	28,102,454	△1,001,546
北海道委託金収入	13,505,000	13,506,554	1,554
札幌市委託金収入	15,099,000	14,595,900	△503,100
札幌市補助金	500,000	0	△500,000
(8) 寄付金収入	350,000	347,400	△2,600
寄付金収入	350,000	347,400	△2,600
(9) 雑収入	353,000	353,934	934
受取利息収入	1,000	759	△241
雑収入	352,000	353,175	1,175
事業活動収入計	125,584,000	127,009,497	1,425,497
2. 事業活動支出			
(1) 事業費支出	117,368,000	115,511,373	1,856,627
給料手当支出	63,471,000	63,470,168	832
臨時雇賃金支出	11,904,000	11,903,820	180
福利厚生費支出	11,307,000	11,306,734	266
旅費交通費支出	539,000	538,580	420
通信運搬費支出	715,000	675,259	39,741
消耗什器備品費支出	1,290,000	1,289,236	764
消耗品費支出	3,208,000	3,207,384	616
修繕費支出	48,000	47,294	706
印刷製本費支出	165,000	164,340	660
燃料費支出	1,129,000	1,128,754	246
光熱水料費支出	2,255,000	2,233,558	21,442
賃借料支出	1,965,000	1,520,883	444,117
保険料支出	486,000	485,815	185
諸謝金支出	2,245,000	2,017,000	228,000
租税公課支出	1,666,000	1,665,012	988
負担金支出	480,000	341,104	138,896
委託費支出	5,514,000	5,513,558	442
雑支出	85,000	0	85,000
医薬材料費支出	20,000	10,339	9,661
デイケア材料費支出	899,000	898,149	851
利用者工賃支出	6,261,000	6,260,645	355
手数料支出	1,695,000	813,151	881,849
支払利息	21,000	20,590	410
(2) 管理費支出	17,556,000	15,524,722	2,031,278

収 支 計 算 書

令和 2年 4月 1日から令和 3年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
役員報酬支出	141,000	33,300	107,700
給料手当支出	11,779,000	11,528,908	250,092
臨時雇賃金	73,000	42,992	30,008
福利厚生費支出	2,248,000	2,059,862	188,138
会議費支出	40,000	0	40,000
旅費交通費支出	35,000	3,700	31,300
通信運搬費支出	97,000	74,414	22,586
消耗什器備品費支出	397,000	0	397,000
消耗品費支出	910,000	132,078	777,922
修繕費支出	14,000	938	13,062
燃料費支出	109,000	77,712	31,288
光熱水料費支出	176,000	140,302	35,698
賃借料支出	69,000	68,738	262
火災保険料支出	54,000	53,705	295
租税公課支出	21,000	17,038	3,962
負担金支出	126,000	55,146	70,854
支払利息支出	21,000	0	21,000
雑支出	47,000	46,994	6
手数料支出	97,000	96,949	51
委託費支出	1,102,000	1,091,946	10,054
事業活動支出計	134,924,000	131,036,095	3,887,905
事業活動収支差額	△9,340,000	△4,026,598	5,313,402
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			
(2) 特定資産取得支出	4,564,000	4,517,879	46,121
退職給付引当資産取得支出	4,564,000	4,517,879	46,121
投資活動支出計	4,564,000	4,517,879	46,121
投資活動収支差額	△4,564,000	△4,517,879	46,121
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
(1) 借入金収入	25,000,000	25,000,000	0
長期借入金収入	25,000,000	25,000,000	0
財務活動収入計	25,000,000	25,000,000	0
2. 財務活動支出			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	25,000,000	25,000,000	0
IV 予備費支出	0	0	0
当期収支差額	11,096,000	16,455,523	5,359,523
前期繰越収支差額	25,834,000	25,834,186	186
次期繰越収支差額	36,930,000	42,289,709	5,359,709

収支計算書に対する注記

1 資金の範囲

資金の範囲には、現金預金、未収金、前払金、未払金、未払消費税等、預り金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載するとおりである。

2 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

科 目	前 期 末 残 高	当 期 末 残 高
現 金 預 金	13,965,618	32,928,787
未 収 金	17,346,824	17,849,546
前 払 金	70,000	70,000
合 計	31,382,442	50,848,333
未 払 金	4,073,922	6,516,657
未 払 消 費 税 等	631,500	1,001,200
預 り 金	842,834	1,040,767
合 計	5,548,256	8,558,624
次期繰越収支差額	25,834,186	42,289,709

4 監査報告

監査報告書

公益財団法人 北海道精神保健推進協会
理事長 阿部 幸弘 様

私たち監事は、令和2年4月1日から令和3年3月31日までの令和2年度における理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事及び使用人と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿及び関連する書類の調査を行い、当該年度に係る計算書類等（貸借対照表、正味財産増減計算書及びこれらの附属明細書並びに財産目録）について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、当法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類等の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

以上

令和 3 年 5 月 2 / 日

公益財団法人 北海道精神保健推進協会

監事 松下 貞則



監事

日浅 尚子



資 料 編

1 理事・監事・顧問・参与・評議員名簿 (令和3年3月31日現在)

役 職	氏 名	所 属
理 事 長	阿 部 幸 弘	こころのリカバリー総合支援センター所長
副理事長	池 田 輝 明	北海道精神病院協会会長 桑園病院院長
常務理事	中 川 悟	北海道精神保健推進協会事務局長
理 事	生 駒 一 憲	北海道大学病院リハビリテーション科教授
理 事	石 川 博 基	北海道精神神経科診療所協会会長 いしかわ心療・神経クリニック院長
理 事	小 出 英 子	NPO法人オーク会副理事長
理 事	廣 島 孝	北海道保健福祉部技監
理 事	竹 村 真 一	札幌市保健福祉局 障がい保健福祉部長
理 事	中 村 末太郎	北海道精神障害者家族連合会会長
理 事	松 原 良 次	札幌精神科医会会長 札幌花園病院院長
監 事	松 下 克 則	北洋銀行常勤監査役
監 事	日 浅 尚 子	北海道新聞社常勤監査役
評 議 員	石 山 貴 博	NPO法人精神障害者回復者クラブすみれ会副理事長
評 議 員	大 澤 恵留美	北海道大学病院リハビリテーション部技師長
評 議 員	岡 崎 大 介	北海道精神保健福祉センター所長
評 議 員	鎌 田 隼 輔	札幌市保健福祉局精神保健福祉センター所長
評 議 員	菅 原 悦 子	NPO法人札幌市精神障害者家族連合会会長
評 議 員	善養寺 圭 子	北海道家庭生活総合カウンセリングセンター理事
評 議 員	池 田 桂 子	こころのリカバリー総合支援センター「リラの会」会長
評 議 員	矢 部 滋 也	一般社団法人北海道ピアサポート協会代表理事
評 議 員	田 中 美奈子	こころのリカバリー総合支援センター医療参事
評 議 員	土 肥 一 一	こころのリカバリー総合支援センターOB会会長
評 議 員	西 村 正 樹	認定NPO法人DPI (障害者インターナショナル) 日本会議 副議長

2 財団法人設立から、今日までの経過等

昭和62年	7月 7日	財団法人設立準備委員会発足 (第1回会議)
〃	8月 10日	財団法人北海道精神保健推進協会 (仮称) 設立準備委員会 (第2回会議)
〃	8月 11日	財団法人北海道精神保健推進協会 (仮称) 設立発起人会 (設立総会)
昭和62年	8月 20日	民法第34条の規定に基づく財団法人北海道精神保健推進協会設立許可申請
〃	9月 1日	同上許可 (北海道知事)
〃	9月 1日	財団法人北海道精神保健推進協会事務局設置

〃	9月10日	法人登記
平成 元年	2月16日	「札幌デイ・ケアセンター」開設
〃 21年	4月 1日	「こころのリカバリー総合支援センター」に改称
〃 24年	4月 1日	財団法人から公益財団法人へ移行
〃 26年	6月16日	就労継続支援B型事業所「こころカ・プロダクション」開設
〃 28年	6月16日	就労移行支援事業所「こコスト」開設
〃 28年	6月16日	相談支援事業所「ココクル」開設
〃 30年	4月 1日	就労定着支援事業所開設（こころカ・プロダクション内）
令和 2年	4月 1日	就労移行支援事業所「こコスト」の名称を多機能型事業所「こころカ・プロダクション」に統一

3 施設の概要

(1) 「こころのリカバリー総合支援センター」

所在地 札幌市白石区平和通17丁目北1番13号

建物構造 鉄筋コンクリート1部2階建

面積	敷地面積	4,819.66 m ²
	建築延面積	1,793.7 m ²
	・管理訓練棟	1,315.5 m ²
		（うち90.7 m ² を「こコスト」「ココクル」で使用）
	・体育館	463.20 m ²
	・附属建物	15.00 m ²
附属設備	テニスコート	1面

(2) 「こころカ・プロダクション」

所在地 札幌市白石区平和通15丁目北13番18号

建物 民間住宅借上 木造3LDK 90.26 m²

4 基本財産

基本財産の総額は5,000万円で、すべて関係団体の寄附金及び北海道、札幌市からの出捐金であり、その内訳は次表のとおりである。

(単位：円)

機 関、団 体 名	金 額
北海道精神病院協会	10,000,000
北海道精神障害者家族連合会	10,000,000
札幌市婦人福祉推進協会	10,000,000
北海道	10,000,000
札幌市	10,000,000
計	50,000,000